

2019年(平成31年)

1月22日
火曜日

発行所
中部経済新聞社
〒450-8561
名古屋市中村区
名駅4-4-10

編集局 052(561)5212
読者開拓局 052(561)5216
広告部 052(561)5213
事業部 052(561)5675
総務部 052(561)5215
東京支社 03(3572)3601
©中部経済新聞社2019

購読のお申し込み
☎0120・605・123

大垣の本社敷地に新工場

ソフトカプセル専用 今秋稼働へ

中日本カプセル

サプリメントなど健康食品を受託生産する中日本カプセル(本社大垣市荒尾町、山中利恭社長、電話0584・933・1013)は、本社敷地内に新工場を開設する。健康志向の高まりを受け、ソフトカプセルの受注増に対応する。工場新設でソフトカプセルの生産能力を3割引き上げる。投資額は約9億円を計画。今年秋の稼働を目指す。

(大垣・菊地治滋)



新工場のイメージパース

同社は1996年に創業。健康食品素材の調達からカプセル充てん、包装までを一貫生産している。安くて高品質の製品に定評があり、食品メーカーや通信販売会社、製薬会社など150社以上のOEM(相手先ブランドによる供給)生産を手掛けている。ソフトカプセル製造は同社の主力事業。全体の製造量の約7割を占める。今回、受注増への対応に加え、自社の特許製品の製造体制強化を狙い、新工場の建設を決めた。18年末に着工。工場の新設は7年ぶり。

新工場は、大垣市の本社第1、第2工場の西側隣接地に取得した用地に建設。第3工場とする。ソフトカプセル専用工場で、2階建て延べ床面積1800平方メートル。安全と品質強化の一環として、工場内は「陽圧式」のクリーンルームを採用。除菌除湿効果を持つ空調機器を導入し、内部の気圧を外部よりも高めることで、ほこりなどの侵入防止を徹底する。また、原料受け入れから製品出荷までの動線



品質管理を徹底する中日本カプセル(写真はソフトカプセルの検査ライン)

には、高速シートシャッターを多重に配置。外部側のシャッターにはエアカーテンを設置し、開口時に高速エアで虫や異物の侵入を阻止する。さらに、「エールームマシニング」を採用。製造ラインごとの工程管理を徹底することで多品種製造に対応。他の商品が混在しない、ロット別の管理を実現する。外観検査は、目視による品質チェックのほか、最新鋭の3方向高性能カメラによる「自動選球」で規格外品を排出する。

山中社長は「最新鋭の自動化設備を導入し、より一層の品質向上に取り組んでいく」と話している。